

平成28年度 赤穂市学校(園)評価報告書

学校園名 赤穂市立赤穂西小学校

1 本年度の学校(園)経営方針

「『確かな学力』と『豊かな心』をもつ児童の育成～自ら考え、判断し、行動できる自立した西小っ子をめざして～」の学校教育目標のもと、人権尊重の精神を基盤に据え、いじめのない学級、学校をつくる。また、児童のよさや成長を認め、ほめて伸ばすことにより、自尊感情を育み、「今日も来てよかった、明日も来たい、通わせたい赤穂西小学校」を全ての児童・保護者・地域住民が実感できる経営を行う。

2 本年度の学校(園)重点目標

校訓「かしこく・やさしく・たくましく」の具現化	
かしこく	主体性を育む教育 ○児童が主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーニングの授業づくり ○確かな学力の定着 ○キャリア教育の推進 ○ICTを活用した授業改善
やさしく	かかわりを大切にする教育 ○人権教育の推進 ○いじめ・不登校問題への積極的な対応 ○特別支援教育の充実 ○道徳教育の充実 ○開発的生徒指導の推進
たくましく	鍛え継続することを大切にする教育 ○体育・保健学習の改善・充実 ○日常的な運動や遊びの奨励による体力づくり ○健康・安全面の充実 ○家庭と一体となった生活習慣の改善と確立

総合的な学校園関係者評価

本校は、コミュニティ・スクール指定校として、学校・保護者・地域の三者が一体になって児童の成長を支援する活動に取り組んでいる。活動の達成状況について、学校運営協議会委員による評価を実施した。

- 5段階評価において比較的評価の高い項目として以下の内容が挙げられる。
 - ・学校は教育ビジョン（経営方針）や重点目標を明確に示している。
 - ・学校は「学校だより」や回覧文書などにより、学校の様子を積極的に伝えている。
- 5段階評価において比較的評価の低い項目としては以下の内容が挙げられる。
 - ・三歩一声運動（児童の登下校時に可能な範囲で外へ出て、見守りや声かけをしていく運動）が地域に広まっている。
 - ・子どもたちは、相手の気持ちを考えた態度や言葉づかいができていない。
- 記述式評価では以下の内容が挙げられる。
 - ・小規模校のよさを生かした教育が充実しており、統廃合しないほしい。
 - ・他校との交流を充実させ、よい意味での競争心も育んでほしい。

コミュニティ・スクール活動が4年目となり、活動の充実とともに成果の積み上げが見られる一方で、課題も明らかになってきている。今後その解決に努めるなかで、特に三歩一声運動については地域と一体となって改善策を模索していきたい。

3 自己評価結果 (A～D) A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

学校園関係者評価

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

観点(重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組)	評価資料	達成状況	改善の方策
各学年に定着した基礎基本の徹底を図り、児童自らが課題と見直しをもって学習を進め、達成感が味わえる学習を展開することで「分かる授業」「楽しい授業」の実現を図る。	項目 子ども・地域の実態を踏まえた特色ある教育課程が実施できているか。	研究授業 たのうらタイム	A	学習指導要領改訂の方向である「学びに向かう力」の育成をめざし、実態に即したカリキュラムの見直しと授業の充実をめぐる。 基礎基本の定着を図るため、自主学習の仕方を指導するとともに学習状況を家庭へ発信し、より確かな学力形成をめざす。 総合的な学習の内容を一層精選し、キャリア教育に根ざした地域人材の発掘、安定した協働体制を充実させる。 道徳・各教科等と関連づけた特別活動のカリキュラムを見直し、児童の主体的な活動を充実させる。 どの児童にも「できる」「分かる」授業作りをするため、「視覚化・共有化・焦点化」を通じた授業研究を推進する。
	指標 教科書を主たる教材としつつ、実態に応じた補助教材で指導している。	児童の様子		
	項目 問題解決・学び方を通し、自ら学び自ら考える力を育成しているか。	アンケート たのうら学習発表会		
	指標 発表・ノートへの教師の助言が適切で、子どもが学習意欲を持っている。	授業記録簿 児童の様子		
授業の中で達成感・自己有用感を感じさせ、自尊感情を育むとともに、すべての児童が互いの個性を尊重し認め合う人権教育を推進する。	項目 各教科等と連携を図った道徳カリキュラムの見直しと実施が進んでいるか。	道徳教育全体計画 道徳年間指導計画	B	文科省「私たちの道徳」及び兵庫版道徳副読本等、効果的な資料を活用し、平成30年度の教科化に向けた「道徳の時間」の一層の充実を図る。 全ての学級が人権尊重の視点に立ち同一歩調で学級経営と授業づくりに取り組むために、全職員で情報交換を密にし、課題と成果を共有しながら実践を進める。 日々の児童観察、毎月のいじめアンケート、生活本読み表での保護者とのやりとり等を通して、きめ細かく児童の実態把握と対応を進める。
	指標 兵庫版道徳副読本を活用し、実態に即したカリキュラム編成ができ、実施できている。	児童の様子 自分見つけアンケート		
	項目 自他の人権を尊重し共に生きる心を培う人権教育を推進しているか。	教職員の様子 学校自己評価		
	指標 子どもは善悪の判断ができ、自分や友達を大切にしている。	教職員の様子 学校自己評価		

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	1時間の授業の中で一人一人に何度も発言の機会が保障できたり、学校行事等で全員が主役になれるチャンスがあったりと、小規模校ならではの充実した教育活動を今後も続けてほしい。きめ細やかな指導や一人一人の個性の伸長を今後とも大切にしてほしい。 兵庫型教科担任制、新学習システム、幼小中の連携等、児童を組織的にチームで指導するシステムが構築されている。そのため児童が落ち着き、安定した雰囲気教育活動が進んでいる。 幼小の連携が行事だけにとどまることなく、保育や授業の内容にまで踏み込んだ交流を一層進めてもらいたい。 地域人材の活用が定着する一方で教育課程を圧迫していないかが気になる。組織化と精選を進めてほしい。 子どもたちに視野を広くもたせ、市の陸上大会等にも積極的に参加し、向上心をもたせてほしい。
◎	◎	「道徳の教科化」がニュースで取り上げられ全国的に関心が高まる中、西部地区でも保護者や地域住民が学校の動向を見守っている。と同時に、心の教育における家庭・地域の役割と責任を自覚し、大人が連携して子どもに手本を示せるように学校運営協議会からも啓発を進めていきたい。 赤穂西小では「いじめはどの学校にでも起こりうる」という認識に立ち、教師の認知感度を高め、ごく初期の「いじめの芽」の段階における適切な指導が功を奏している。この姿勢を継続し、家庭と連携した取組を一層充実させてほしい。 道徳の時間をはじめ、各教科・特別活動・総合的な学習の時間などの教育活動全体を通して一人一人が大切にされ、児童の人権意識の高揚を図ることができるよう、教職員間での共通理解を一層深めていってほしい。

観 点	評 価 項 目 (学校園・教師の取組)	評価資料	達成状況	改善の方策
	評 価 指 標 (児童・生徒・園児の状態・行動)			
特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を充実させ、個別の指導計画をもとにした組織的・計画的な支援に努め一人一人への支援の充実を図る。	項目 指標	児童理解を基盤に指導力の向上に向けて研修が進んでいるか。 課題を持つ子どもについて絶えず話し合い、実践を進めている。	児童の様子 学校自己評価	A
	項目 指標	校内相談体制を整備し、内面理解に基づく生徒指導を充実しているか。 情報交換を定例化し、全職員の共通理解のもと指導に当たっている。	会議録 個別の指導計画	
	項目 指標	個のニーズを把握し個に応じた特別支援教育が実践できているか。 課題を持つ子どもが集団の中で認められ生き生きとしている。	児童の様子 個別の指導計画	
	項目 指標	個別の指導計画に基づき、掲示の工夫やスモールステップ等の必要な支援ができていますか。 一人一人の抱える課題について正しい情報を把握している。	特別支援教育校内委員会記録	
教師としての使命と職責を自覚し主体的な研修と実践に努め、専門職としての力量を高めることにより、児童・保護者・地域の願いを受け止め、地域に信頼される学校づくりをめざす。	項目 指標	命と人権を守る防災教育や不審者対策が充実しているか。 危機管理マニュアルや全体計画に基づいて確実に指導できている。	訓練実施後のアンケート	A
	項目 指標	学校環境が子どもにとって安全・安心なものになっているか。 施設・設備・校地の安全点検と営繕が滞りなく実施されている。	安全点検表	
	項目 指標	学校評価（自己・保護者・関係者）や地域アンケートが適切に実施され改善に向け進んでいるか。 結果が公表され、改善点が明確になっている。	学校関係者評価	
	項目 指標	保護者連携による「早寝・早起き・朝ごはん」の実践化が進んでいるか。 子どもの生活実態を「生活・本読み表」等で担任が把握している。	生活・本読み表 生活実態アンケート	
	項目 指標	心安らぐ美しい教育環境となるよう整備がなされているか。 清掃活動が無言ででき、花が美しく飾られている。	校内環境 校内安全点検表	
	項目 指標	P T A本部役員を中心に会員相互の理解が進んでいるか。 常任委員会、部会、会報等を通して会員同士が情報を共有できている。	P T A活動状況 P T A広報紙	
	項目 指標	オープンスクール、学校通信、学級通信、ホームページ等で情報を発信しているか。 保護者や地域の方から発信に対するフィードバックがある。	生活表 アンケート	
「コミュニティ・スクール」の推進により保護者によるボランティア、地域ボランティア等の組織・計画を整備し、学校を支える体制の充実を図る。	項目 指標	オープンスクール、学校通信、学級通信、ホームページ等で情報を発信しているか。 保護者や地域の方から発信に対するフィードバックがある。	生活表 アンケート	A
	項目 指標	学校運営協議会が定期的実施され、成果が全体化されているか。 記録が資料化され、教育活動に反映されている。	学校運営協議会	
	項目 指標	西部地区まちづくり連絡協議会、スポーツクラブ21西部等と連携ができていますか。 外部連携が子どもの育ちに正の効果をもたらしている。	児童の様子 日記	
	項目 指標	ゲストティーチャー、学校行事等で地域人材の活用が効果を上げているか。 子どもたちに地域への誇りや愛着、キャリア形成の素地が育っている。	児童の作文 学校関係者評価	

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	個別の指導計画をもとに計画的に指導を進めるとともに、担任が替わっても一貫した指導が継続されるように引継ぎを大切にしてほしい。 障害者差別解消法の施行により合理的配慮の実行が義務づけられた。将来、該当児童が入学してくることを想定し、適切な対応がとれるよう準備を進めてほしい。
◎	○	地震・津波・土砂崩れ等の自然災害、火災、不審者対策等、あらゆる危機を想定した実地訓練が年間計画に位置づけられている。これらがマンネリ化しないよう絶えず研修を重ね、マニュアルを見直し、子ども達の命をあずかる学校の重責を果たしてほしい。 学校評価の結果を公表し、家庭や地域と連携して「信頼される学校づくり」に邁進してもらいたい。 教職員・P T A会員の地域行事等への積極的参加を通して自治会等との日常的なコミュニケーションが活性化し、地域住民や高齢者との交流も進む。市内で最も少子高齢化が進む西部地区だからこそ、地域創生に向けて学校と一体となった取組を力強く推進していきたい。
◎	◎	学校からの情報発信が活発である。同時に、地域からの情報に対する学校のレスポンスが早い。情報に対する学校の対応が「見える化」されており、学校・保護者・地域間に信頼関係が構築されている。今後もこの姿勢を継続してほしい。 児童のあいさつ運動、P T A研修部のあいさつ当番等、継続的な取組が伝統となり定着してきた。全校児童と老人クラブ合同のグラウンドゴルフ大会も年2回実施され、コミュニケーションの活性化に効果を上げつつある。 「継続は力なり。」を合い言葉に「三步一声運動」を通じた登下校の安全確保が充実するよう、地道な取組を進めていきたい。

自己評価における特記事項

○各学期ごとに教職員による学校自己評価を実施し、その総合的な判断を「達成状況」に表している。
○平成32年度の新学習指導要領の完全実施に向けて移行措置が始まる。平成30年度からの道徳の教科化に向けた実践研修、平成32年度からの高学年における英語の教科化、中学年における外国語活動の導入などの具体的動きとともに、「主体的・対話的・深い学び」をキーワードとした「学びに向かう力」の育成に向け、学校評価を通じたP D C Aサイクルを効果的に機能させていきたい。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

県から業務改善中心校の指定を受け、定時退勤日の完全実施を中心とする取組を進めている。記録簿記入の時間設定が今後の課題である。
1～4年教室のカバン棚が新しくなるなど、施設設備の計画的な整備が進んでいる。児童トイレの改修、体育館ステージ幕の修繕等、今後も環境整備を進めていきたい。
各学年に1台ずつタブレット端末が導入された。授業におけるI C T活用を一層推進していきたい。